

ビジネストーク

「走り始めた巨象」

頭取 大道 良夫

11月初めの3連休をはさんで6日間、滋賀県経済団体連合会の6団体の皆さんと北インドを視察してきました。

訪れたのはデリーとアグラ、ジャイプールの3都市。伊藤忠インド会社、JETROニューデリー事務所、マルチ・スズキ・インディア社を訪問しました。また、世界遺産であるアグラのタージ・マハルとアグラ城、ジャイプールのアンベール城とジャントルマンタル(天文台)を見学。4泊6日、デリー発着で約1千kmに及ぶ、まさに強行軍でした。

インドは人口が日本の約10倍、面積で約9倍。わずかな日数垣間見ただけで語るのは至難の業ですが、真つ先に浮かんできた言葉は「混沌」。人と高級外車、動物(牛、馬、象、ヤギなど)、現代と古代、テクノロジーと篤い宗教心などが混在、同居しているとの印象です。

長い間、日本企業のインド進出は低迷しました。水と食べ物(全てカレー味)に馴染めない、慣習上、宗教上の違いなどが主な理由だったそうです。

しかし、自動車産業がいち早く進出し、2004年にインドを含む新興5大国を指す「BRICS」という呼称が世界に浸透して流れが一気に加速しました。13年10月時点では、日本企業1072社が2542拠点を構え

ています。加えて、今年5月に投資促進等を掲げるモディ政権が誕生するなか、政府による「Make in India(インドでものづくりを)」プロジェクトがスタートし、さらに多くの日本企業がインド進出を検討、開始しています。

デリーから約100km地点で開発中の「ムラナ日本企業専用工業団地」では、著名企業が名を連ね、日本人専用のマンションや日本料理店も。今回訪問できなかったムンバイは最先端の経済・工業都市に成長しているとのこと。最近では新興国戦略商品開発、つまり「現地化」のため、日本企業、とくに製造業で研究開発拠点を現地に設ける動きが広がり、日本企業のインド進出はますます加速の勢いです。

今回の視察には、当行バンコク駐在員事務所、河村所長も同行しました。インド経済の発展には当行も注目しており、河村所長は約2カ月ごとにインドを訪問して最新の経済動向を調査しています。

中国やASEANとは、ひと味違う可能性を秘めたインド。同行の皆さんと一致した、その印象は、まさに「走り始めた巨象」でした。

インドをはじめ、さまざまな可能性を持つアジアでのビジネス展開は、ぜひ「しがきん」にご相談ください。



マルチ・スズキ・インディア社を訪問